

(4) 蕨岡小学校

学 校 長 石川 真紀
校内研代表者 山崎 充子

1. 研究主題 「自らの考えを持ち、共に高め合う児童の育成」
－主体的に学び、考え、表現することのできる授業を通して－

2. 主題設定の理由

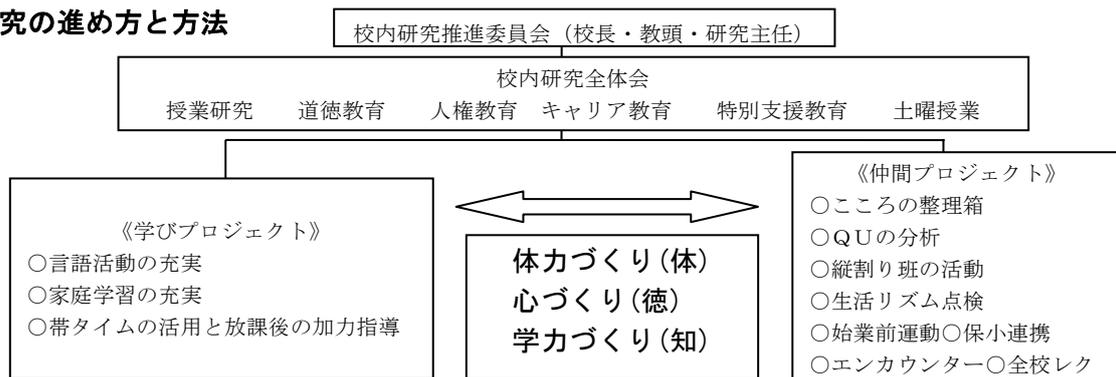
「自らの考えを持ち、共に高め合う子どもの育成」という研究テーマに沿って、完全複式授業の中で、目標の達成に向けて取り組んできた。

取組として、公開授業を3回設定しP D C Aを活かしながら授業力向上に努めるとともに、高知大学附属小学校の先生方や地域の方の講話や授業から、新しい授業形態の習得や学力の定着へつなげていくようにした。また、主体的・対話的で深い学びにつなげるための素地として、学びプロジェクト（発表朝会、全校集会、フリートーク、エンカウンター、新聞への投稿など）や仲間プロジェクト（Q-U、こころの整理箱、エンカウンター、全校遊び、縦割り班活動など）も継続してきた。

その結果、複式授業の中でも児童が中心となり自分たちで進めていく場面も増え、教師主導の授業スタイルは少なくなり、授業力向上につながった。そして、児童は学級または学校全体の中で意欲的に発表したり関わっていきこうとしたりする姿が多く見られるようになった。教師も授業スタイルの統一により、めあてやまとめの提示や板書から、その授業での目標が明確になり、1時間完結の授業が定着するようになった。しかし、自分の思いを十分伝えることができにくかったり、他の意見を取り入れ自分の考えと比較したり広げたりすることが課題となっている児童もいる。また、自分の思いを書くことに苦手意識を持つ児童もみられる。

そのような実態をふまえ、本年度も「自らの考えを持ち、共に高め合う児童の育成」という研究テーマを引き継ぎつつも、サブタイトルは～主体的に学び、考え、表現することのできる授業を通して～を設定することにした。「主体的・対話的で深い学び」に近づくためには、共通理解のもとに授業公開をし、学力調査等の分析も踏まえながら改善を進めることを研究の第一にした。複式のデメリットをメリットと考え、聞く・話す・書く活動を取り入れた鍛える授業を仕組むこととともに、基礎学力の定着を図るために個に応じた対応を設定していきたい。そのために、高知大学附属小学校の複式担当の先生方に来ていただき、指導助言をもらう。また、他者との関わりの中で個々の違いを意識したコミュニケーションや集団での関わりを大切にしていくために、道徳や人権、キャリアなどの視点からも取り組んでいきたい。そのような取り組みから自然にあいさつができ、自分の意見が言える力が身につく、他の意見を聞きそれを基に自分の考えを確かにしていく児童の姿をめざしたい。

3. 研究の進め方と方法



4. 具体的な取り組み

【授業での共通認識】

- ・黒板に「めあて、思考過程、まとめ・ふりかえり」がある授業
- ・児童の思考を深める展開になっている授業
- ・1時間の中に「話し合う活動」「書く活動」がある授業
- ・問いから振り返りまでの1時間完結になっている授業

【めざす授業の共有化】

- ・全学級研究授業（年間3回以上）。教科は算数とキャリア教育 or 道徳 or 人権
- ・研究授業は事前研究（校内研究全体会での教材研究と指導案検討）を行い、研究授業、事後研究には指導主事を招聘し授業改善につなげる。
- ・授業参観の視点（・児童が主体的に授業を進めていたか・児童が自分の考えを発表やノートにあらわしていたか・板書のめあてとまとめはつながっていたか・1時間で完結した授業になっていたか）を設定しておき、それを基に協議を行う。
- ・授業力チェックシート（年間2回）による授業の数値化と分析・改善。
- ・外部講師（高知大学附属小学校・指導主事）からの学び。

（1）日々の授業を高める取り組み

- ・めあては、1文または、問いがある2文で作成した。国語・算数以外の教科でも同じようにめあてを提示して、本時のまとめにつなげた。
- ・間接指導を工夫し、話し合う活動、書く活動のある時間を確保するようにした。
- ・単元計画を立てて、ICT活用やキャリア教育の視点を入れるようにした。
- ・自立活動（特別支援学級）においては、サポート事業を活用して指導主事の先生にアドバイスをもらい、今後に生かすようにした。

（2）授業を支えるための取り組み ―学びプロジェクト―

① ことばあそび・フリートーク

- ・年間3回の中で、ことわざ、国語辞典、百人一首についての学習を進め、語彙を豊富にしていく取り組みにつなげた。国語辞典は全員に持たせ取り組み、授業でも活用している。
- ・年間3回のフリートークはテーマに沿って自分の意見を発表し、意見交換をしていく。問いの答えの後に必ず反応を返すようにした。

② ノート展示

- ・全校で学期に1回行っていった。多目的ホールにノート进行展示し、全員が評価をする。1人3このおはじきで学級ごとに投票をし、上位6人を展示した。
- ・学級での場合は全員のノートを展示して、同学年の中の頑張りを紹介した。

③ 家庭学習の充実

- ・低学年から自主学習を位置づける。ノートの最初に自主学習の手引きをはっておき、内容を考える手立てにしている。
- ・テストやプリントの間違いや予習を取り入れるようにした。

④ 帯タイムの活用

- ・朝の（火・木の一部・金）の国語タイム、昼の算数タイムを活用し、計算や漢字の力をつける。
- ・学習の習熟や活用問題を行う。
- ・単元テストを利用していく。

（3）授業を支えるための取り組み ―仲間づくりプロジェクト―

① 体力・運動能力の向上

- ・朝マラソン（7～9月は除く、雨天はラジオ体操）を行い、日本一周のカードに記入している。
 - ・サーキット運動、なわとび運動を行う。
- ②こころの居場所となる温かな学校づくり
- ・縦割り班の活動（学校行事、掃除、児童会主催全校レク、班長による読み聞かせなど）を常時利用して、互いに協力することや上級生としての役割を身につけていく。
 - ・仲間づくりを目的としたエンカウンター（7月、10月、3月）を実施した。
 - ・QU検査・学校生活アンケートの分析（QUと学校生活アンケートは2回、ミニQUは3回）から、個々の児童について分析したり、変化をみていったりした。
 - ・こころの整理箱（学期に1回）を行い、児童を知る手立てにした。
- ③基本的な生活習慣の構築
- ・生活リズム点検（月1回）を行い、分析、課題の共有をした。また、学級全体の目標設定をすることによって、気をつけようという意識の向上につなげた。
 - ・栄養教諭による「パクパク教室」「食育（お弁当の栄養）」の授業を行い、教科（家庭科）や食への意識を高めた。
 - ・高学年へのがん教育の授業から、自分の生活を見つめ直したり、家族との話題に取り上げたりして、健康に対する意識が高まっていった。
- ④保小中連携
- ・スタートカリキュラムとの関連から1.2年生と年長の授業交流を毎学期行い、入学に備えている。
 - ・保育所での各学級の読み聞かせは、園児と関わる機会になり、つながりを深めることができた。
 - ・生活リズムチェックを同時に行うとともに、その結果を保育所、中学校に返したり、共通の目標を立てたりすることで、地域全体で生活の向上につなげている。

5. 今年度の成果と課題

〈成果〉

- ・全学級2回の複式授業（算数）の公開は指導主事との事後研究や数値評価を行うことにより、本校の複式授業スタイルの共通理解や授業力向上につなげられた。
- ・高知大附属小学校の先生による授業や複式教育研究大会の授業に指導主事招聘をするなどして、授業方法を学び、本校のテーマに活かすことができた。
- ・複式の指導案形式を学ぶことができた。
- ・複式指導案について、本校の新しい様式を作ることができた。
- ・QUや心の整理箱を定期的に行い、児童の実態や心の変化について把握し、共通理解をもって指導に当たることができた。
- ・家庭読書を、連絡帳に記入することで、家庭読書の意識化につながった。

〈課題〉

- ・とも学びで、児童同士がもっと討議して内容を深められるよう、更に取り組みを進めていきたい。
- ・振り返りの内容を充実したものにしていける必要がある。